

1. 漁業潜水の問題点に関する実地調査

泰川恵吾*¹⁾ 佐藤英孝*¹⁾ 橋本和代*¹⁾

曾我幸弘*²⁾ 杉村久理*³⁾ 高妻雅裕*⁴⁾

*¹⁾伊志嶺医院
*²⁾東京女子医科大学救急医学
*²⁾産業医科大学
*⁴⁾福岡大学体育学部

【目的】減圧症罹患率が高いといわれる追い込み漁従事者を対象として、潜水に関するアンケートと実地調査を行い、漁業潜水における問題点を考察した。

【方法】1：追い込み漁従事者を対象に、潜水に対する意識と健康調査を目的としたアンケートを行った。2：追い込み漁に同行し、使用機材、漁法を観察、潜水従事者にダイブコンピュータを携帯させ、一日の潜水データを解析した。

【結果】1：「潜水病にかかったことはありますか？」という質問に対して、「はい」の回答が100%であった。また、「自分で潜水病を治療したことがありますか？」という問いに対しての回答も「はい」が100%であった。さらに、100%の回答者が、関節痛や頭痛、耳痛などの症状があると回答していた。27%の回答者は、潜水後12時間以内に飛行機に乗ったことがあると回答した。2：スクーバ機材は、全員がレギュレーターのみであった。水深計、残圧計などの計測装置は一切使用していなかった。潜水記録の解析結果によると、約2時間の間に10m以上15分以上の潜水を3回にわたって行っていた。それぞれの潜水の最大深度は14mから20mであった。それぞれの水面休息時間は21分以内であった。また、潜水パターンの特徴として、水面までの急速潜行と急浮上が非常に多く、スピードも速かった。減圧停止は全く行っていなかった。

【考察】漁業潜水従事者には、レジャーダイビングで通常行われるようなライセンス講習などの制度がなく、機材も充実していない。漁業潜水の極めて高い減圧症発生率を低下させるためには、潜水漁従事者に対する安全潜水法の啓蒙が必要と考えられた。

2. レジャーダイバーの実態調査

一 繰り返し潜水回数と最大水深一

芝山正治*¹⁾ 山見信夫*²⁾ 中山晴美*³⁾

小宮正久*²⁾ 内山めぐみ*²⁾ 高橋正好*⁴⁾

水野哲也*⁵⁾ 眞野喜洋*²⁾

*¹⁾駒沢女子大学
*²⁾東京医科歯科大学医学部保健衛生学科
*³⁾牛久愛和総合病院
*⁴⁾資源環境技術総合研究所
*⁵⁾東京医科歯科大学教養部

年間を通して活動しているレジャーダイバー数は、およそ30万人と推定され、その中の減圧症の罹患経験者は2%と予測されている。減圧症の発症原因は、無謀な潜水とされており、繰り返し潜水回数が多かったり、深い潜水を行うことが要因となっている。これらの因果関係について1998年までの調査に基づき分析し、検討したので報告する。

【方法】1996年から1998年までの3年間に静岡県伊豆半島の大瀬崎で聞き取り調査を行ったダイバーを対象とした。

【結果と考察】調査は1996年に499名、97年に635名、98年に549名の計1683名である。平均年齢は男性が31.2才、女性は27.3才であった。潜水経験年数は4.8年、年間のタンク使用本数は61.3本、最大水深の経験は37.4mであった。

一日の繰り返し潜水回数は、平均で2回であったが、2.3%のダイバーは4回以上の潜水を行い、最大で6回の潜水を行っていた。潜水水深は、最深で80mと答えたダイバーが存在し、ダイブコンピュータを利用して50mを超える潜水を2回繰り返したダイバーも存在した。

ダイブコンピュータの普及率は68.8%と高いが、深い潜水をチャレンジする傾向が認められ、より積極的な安全潜水への普及が必要である。